

# 令和2年度地域公共交通確保維持改善事業に係る第三者評価委員会の結果について

## 1 第三者評価委員会について

### (1) 趣旨

地域公共交通確保維持改善事業がより効果的、効率的に推進されるために、中部運輸局管内の各協議会の自己評価に対して、学識経験者等を含む「第三者評価委員会」が評価・アドバイス等を行うもの。

### (2) 開催日

令和3年2月15日（月）

### (3) 評価委員会の構成（愛知県）

学識経験者	まちづくりの達人ネットワーク理事長 伊豆原 浩二 氏 名古屋大学大学院教授 加藤 博和 氏 岐阜大学教授 倉内 文孝 氏
行政経験者	中部運輸局交通政策部長、中部運輸局鉄道部長、中部運輸局自動車交通部長、中部運輸局海事振興部長

※中部運輸局ホームページより引用

## 2 主な意見・質疑応答

質問・意見	回答
《加藤委員》 チョイソコが「支線」とされているが、幹線への乗り継ぎはあるのか。チョイソコは支線としての位置付けではないのではないか。	乗り継ぎの数は把握しているが、非常に少ない。
《加藤委員》 チョイソコが導入され市民が便利になったと感じているか。チョイソコだけではなく、豊明市の全ての公共交通で市民や来訪者のニーズにこたえられているか考える必要がある。本当に訴求したものを提供できているか分かるような調査をした方がよいが、今後何か追加調査をする予定があるか。	地域懇談会で直接意見を聞きたいと考えている。

<p>《加藤委員》</p> <p>チョイソコの検証がなされていない印象なので、地域懇談会でチョイソコが使えるのかを話し合う必要がある。</p>	
<p>《倉内委員》</p> <p>アンケート結果でバスの乗り継ぎに関する満足度が低いが、要因を把握しているか。</p>	<p>2019年度に路線を大幅に変更し、ターゲット層を広げた結果、高齢者の満足度が下がったと思われる。再編前はずっと乗っていれば前後駅に着くようなルートであったのが、コンパクトな路線にした結果、乗り継ぎが必要になったことも要因と考えている。</p>
<p>《中部運輸局_交通企画課長》</p> <p>立地適正化計画との連携が謳われているが、どのような考え方か。</p>	<p>まちづくりの施策として、団地内の2つの学校のうち1つが閉校になり跡地に多世代交流施設を整備するため、そこへの公共交通の乗り入れをするなど、まちづくりとの連動を予定している。</p>
<p>《伊豆原委員》</p> <p>チョイソコに関して、先駆者として周辺市町と情報共有してほしい。</p>	

### 3 中部運輸局二次評価結果

#### 《評価できる取組》

- ・次期計画策定に向けた調査事業が計画どおり実施されたことが確認できた。

#### 《期待する取組》

- ・今年度の調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待する。
- ・「チョイソコ」に限らず、地域全体の公共交通網を見据えた公共交通サービスの構築に向けて利用者ニーズを把握しつつ取組を進めることを期待する。